

施工手順書⑭-2

テラ(TERA)

↓施工動画はコチラ



3m 片引き戸(上吊)

ステルス枠 施工手順書一覧

共通

※シリーズ専用以外の共通編の施工手順書は工事内容別で下記の①、②、③に分かれています。
※マルコシリーズの2・3枚引違い戸(上吊)、2枚引込み戸(上吊・連動)は共通編をご覧ください。
※本書の準耐火仕様とは、ご注文の際に当社の「準耐火仕様」を選択した場合に限ります。

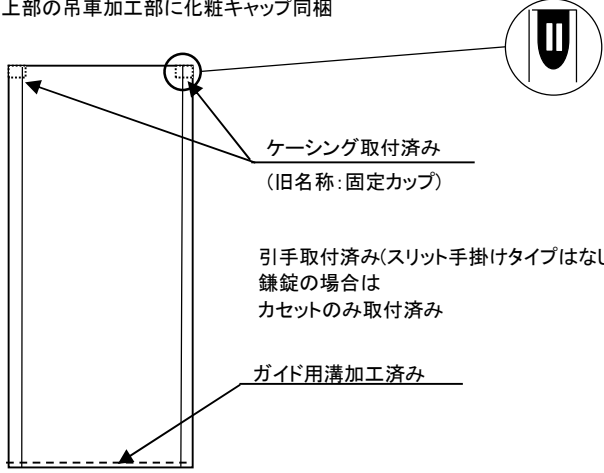
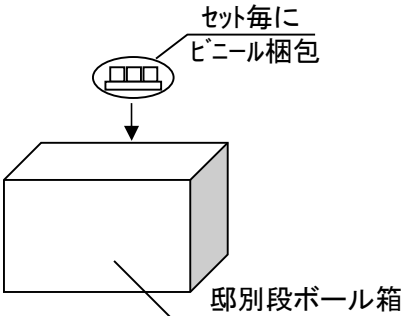
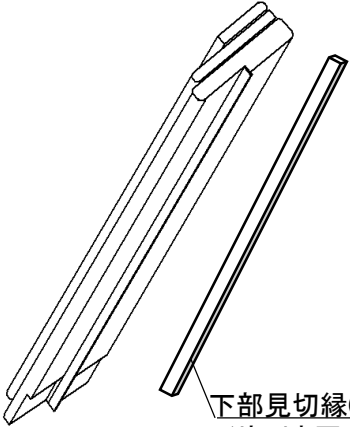
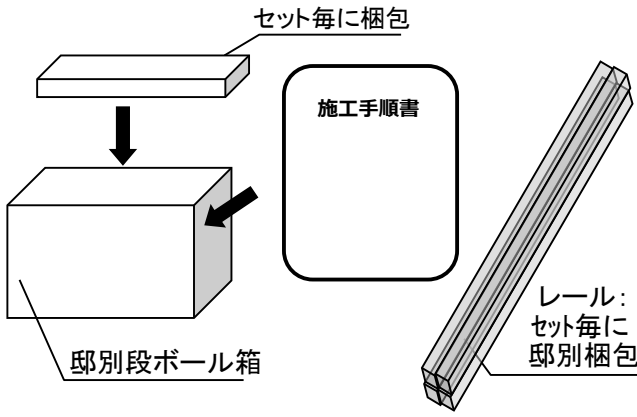
- | | |
|--------------------------------|--|
| ①木工事 | ①-1.ステルス枠・標準仕様 / ①-2.ステルス枠・準耐火仕様
①-3.インセット枠仕様 |
| ②クロス・塗り壁工事
(ステルス枠・インセット枠共通) | |
| ③扉・金物の取
(ステルス枠・インセット枠共通) | ③-1. 開き戸
③-2. 片引き戸(上吊)、ポケット戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)
③-3. 2・3枚引込み戸(上吊・連動)、3枚引違い戸(上吊・連動/非連動)
③-4. 片引き戸(床付レール) |

シリーズ専用

※シリーズ専用の施工手順書(④~⑩)は木工事、クロス・塗り工事、扉・金物の取付が一式含まれます。

- | | |
|---------------------|---|
| ④クローゼツ | ④-1. 折れ戸 ④-2. 物入片開き戸、両開き戸、連続開き戸
④-3. スライド片開き戸 |
| ⑤オートマチックドア | ⑤-1. 片引き戸(上吊)、⑤-2. 片開き戸 |
| ⑥ヴェトロ・ミラノ | ⑥-1. アウトセット片引き戸(上吊) ⑥-2. 開き戸 |
| ⑦カエサル | ⑦-1. スイング戸、両スイング戸、サイドガラスユニット
⑦-2. アウトセット片引き戸(上吊) |
| ⑧マルコ | ⑧-1. 3枚引込み戸(上吊・非連動) ⑧-2. 2枚引分け戸、4枚引違い戸(上吊) |
| ⑨フィット | ⑨-1. スイング戸 ⑨-2. 片引き戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)、2枚引 |
| ⑩ファイブクイーンズ
インディゴ | ⑩-1. スイング戸 |
| ⑪ソリスト・パレス | ⑪-1. ローリング戸 |
| ⑫カーム | ⑫-1. ローリング戸 |
| ⑬フィーナ | ⑬-1. 片引き戸・アウトセット片引き戸・2/3枚引込み戸・2/3枚引違 |
| ⑭テラ | ⑭-1. 片開き戸、⑭-2. 片引き戸(上吊) |

□納品形態

扉と同時に納品されるもの	
建具	建具金物箱
<p>※扉上部の吊車加工部に化粧キャップ同梱</p>  <p>ケーシング取付済み (旧名称: 固定カップ)</p> <p>引手取付済み(スリット手掛けタイプはなし) 鎌錠の場合は カセットのみ取付済み</p> <p>ガイド用溝加工済み</p>	 <p>セット毎に ビニール梱包</p> <p>邸別段ボール箱</p>
下地枠と同時に納品されるもの	
下地枠	下地金物箱とレール
 <p>下部見切縁(樹脂製白色) (片引き戸のみ)</p>	 <p>セット毎に梱包</p> <p>施工手順書</p> <p>邸別段ボール箱</p> <p>レール: セット毎に 邸別梱包</p>

(注意)
テラの扉重量は最大約55kgです。
・扉を運ぶ時、吊り込む時の角当て等、取扱いには十分ご注意ください。
・重量扉専用の上レール、上ローラーを使用しております。
他シリーズの上レール、上ローラーとは互換性がございません。

□片引き戸【テラ専用】

□金物箱の梱包内容

下地金物箱

上レール	デュアルソフトクローザー		トリガー
<div><p>28mm 23mm 2mm</p></div> <p>取付ビス(M3.5×35×14本) 1本</p> <p>*1</p>	<div></div> <p>1セット</p>		<div></div> <p>(取付ビス含む) 1セット</p>
エンドプレート	スパナ	床付けガイド	バンパーブロック
<div><p>28mm 25mm</p></div> <p>2セット</p>	<div></div> <p>1本</p>	<div><p>(取付ビス含む)</p></div> <p>1セット</p>	<div><p>(取付ビス含む)</p></div> <p>エンド枠無: 2セット エンド枠付: 1セット</p>
下部戸当り	壁付けガイド(別売)	調整ビス (エンド枠付仕様のみ)	鎌錠受け
<div><p>(取付ビス含む)</p></div> <p>1セット</p>	<div><p>(取付ビス含む)</p></div> <p>1セット</p>	<div><p>ビス (14本) スペーサー (1枚)</p></div>	<div></div> <p>※「錠付」を注文の際に 納品されます</p>

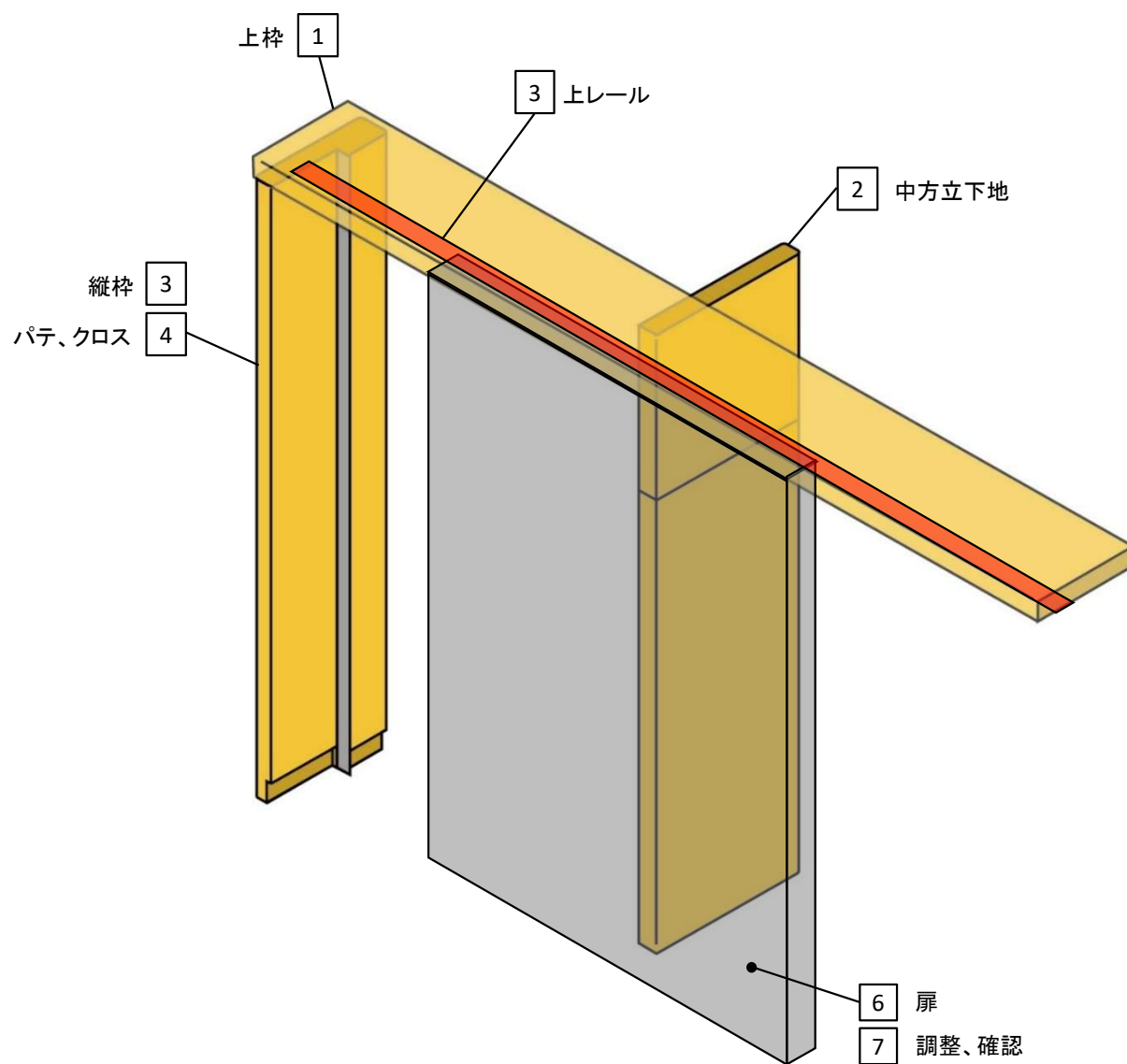
*1 取付ビスは「デュアルソフトクローザー & 上ローラー」の梱包箱にセットされます

建具金物箱

鎌錠
 <p>芯棒は1番長いものを使用</p> <p>※「錠付」を注文の際に納品されま</p> <p>1セット</p>

■ 施工に関する流れ

< 全体図 >



0 施工前の確認

下地枠を取り付ける前に、躯体側に木下地が隙間なく平滑に入っているか、開口部の巾・高さ寸法を確認してください。

1 上枠

上枠下地を接着剤・取付ビス(現場手配品)併用で躯体側木下地に固定します。上枠下地の裏側には30mm以上の木材を入れてください。

2 中方立下地

壁厚に対して扉側に7mm(塗り壁時4mm)のチリが出ます。
中方立は分割されているので、施工時は幅方向、上下方向にズレ、スキの無い様に突き付けて取付けてください。

3 縦枠

- ① 縦枠下地を壁厚(柱)の中央にあてレーザー等で立ちを見ながら、同梱の調整ビスで取付けてください。
- ② 取付の際に、クリアランススペーサー(調整ビスに同梱)を柱と枠の間に入れながら、調整ビスを締めてください。
- ③ 取付・調整後、縦枠下地と柱の間にクサビ、又はパッキン(現場手配品)を接着剤併用(表裏塗布)にて差込み、縦枠下地が動かないようガッチリ固定してください。

4 パテ、クロス(塗り壁)

- 2-1 パテ
縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。
下地パテ、仕上げパテを適正な厚みで施工してください。
- 2-2 クロス
下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。
入隅出隅部は、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながらと貼るとクロスよれの原因となります。

5 上レール

上レールを取り付ける際、戸先側・戸尻側の向きに注意し、金物を上レール内部に入れ、付属ねじで上レールを固定してください。

6 扉

建具下の溝をガイドに差し込みます。建具を起こしていきながら、建具上部のケーシングと上レール内にある上ローラーを連結し、吊り込み完了です。

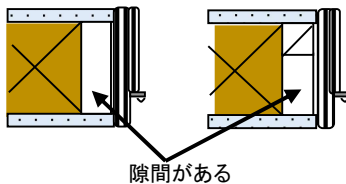
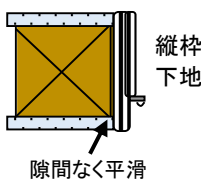
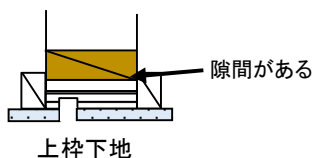
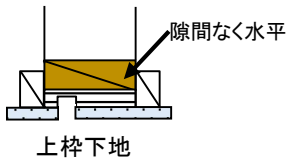
7 調整、トラブルシュート

吊り込み後に上ローラーで調整をする際は、手動ドライバーで行ってください。調整を終えたら、化粧キャップを取付け両側のローラー吊軸の跳ね上がり防止ナットを、本体に接触するまでスパナで締めてください。

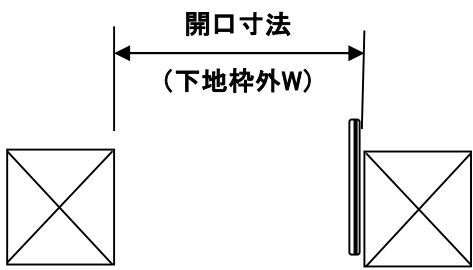
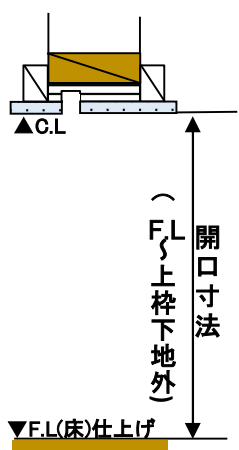
0 施工前の確認

□ 開口部の確認

躯体側木下地の確認

<p>下地枠を取り付ける前に、躯体側に木下地が隙間なく平滑に入っているか確認をしてください。</p>	 <p>縦枠下地 隙間がある</p>	 <p>縦枠下地 隙間なく平滑</p>	<p>下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。</p>
	×	○	
	 <p>上枠下地 隙間がある</p>	 <p>上枠下地 隙間なく平滑</p>	
	×	○	
<p>ポイント</p> <p>※躯体側の木下地（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で十分に確認してください。</p> <p>※上枠下地が無い納まりの場合でもクロスのヨレ・ヒビを防ぐために木下地は隙間なく平滑に入れてください。</p>			

寸法の確認

<p>下地枠を取り付ける前に、開口部の巾・高さ寸法を確認してください。</p>	 <p>開口寸法 (下地枠外W)</p>	 <p>開口寸法 (FL上枠下地外) ▲C.L ▼F.L(床)仕上げ</p>
	<p>【巾寸法】 開口寸法 (= 下地枠外W)</p>	<p>【高さ寸法】 上枠下地がある場合</p>
<p>ポイント</p> <p>※開口寸法は邸別の納まり図でご確認ください。</p> <p>※納まり図の高さ寸法はF.L(床仕上げ面)からの寸法となっているので注意してください。</p>		

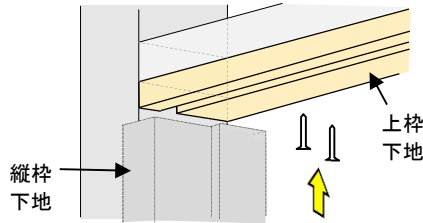
1 上枠

□ 上枠下地

上枠下地の取付【天井高納まり】

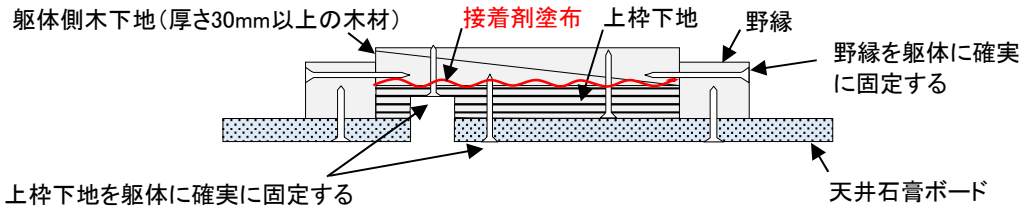
引き戸(上吊)共通

上枠下地を接着剤・取付ビス(現場手配品)併用で躯体側木下地に固定します。(縦枠下地勝ち)
その際、上枠下地の裏側には30mm以上の木材を入れてください。



天井ボード勝ち納まり【標準仕様】

上枠下地裏面に接着剤全面塗布(推奨：酢ビ系)

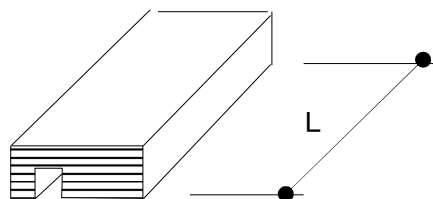


天井石膏ボードを固定する野縁材と上枠下地は躯体側木下地にしっかりと固定してください。
しっかり固定されていないと、クロスのヒビ、ヨレ、ヒビの原因となります。

- ポイント**
- ※縦枠下地、及び片方立下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。
 - ※上枠下地の取付にはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、下穴を空け、レールビスと干渉しない位置でビス留めしてください。
 - ※上枠下地枠取付後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。
 - ※上枠下地の裏側には、必ず30mm以上の木材を入れてください。

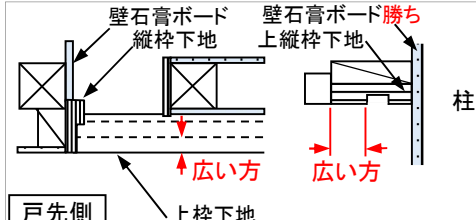
注 上枠下地の長さ、上枠下地の取付向きと取付位置

上枠下地の長さについて



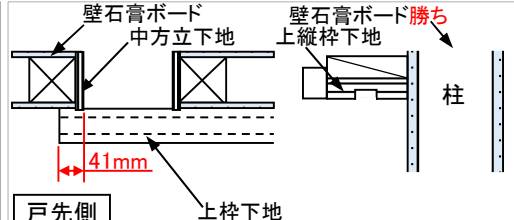
※L=2421mm以上の場合は、2分割で納品
※上枠下地の長さはw下地枠外寸法で納品

上枠下地の取付向きと取付位置について



【アウトセット片引き戸エンド枠付きの場合】

上枠下地の向きに注意(広い方が外側)





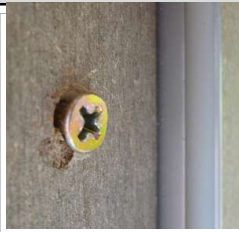

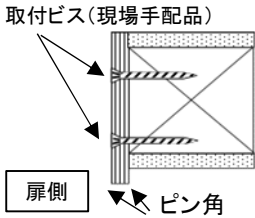
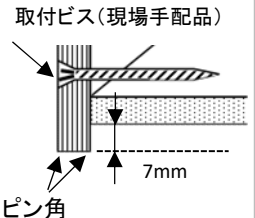
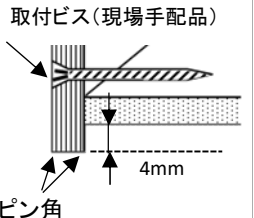
【アウトセット片引き戸エンド枠無しの場合】

上枠下地の位置に注意(中方立下地内から41mm)

ポイント 上枠は壁石膏ボード勝ちで納めます。

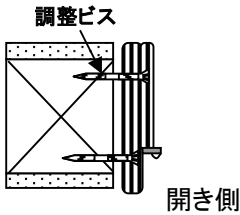
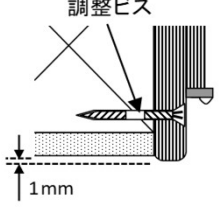



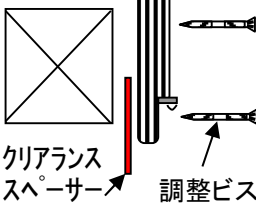
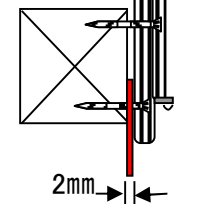


2 中方立下地

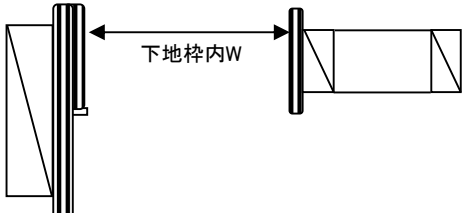
□ 中方立下地

中方立下地の取付	
<p>【注意】 接着剤・取付ビス(現場手配品)併用にて躯体に固定します。</p>	
	<p>裏面に接着剤全面塗布(推奨：酢ビ系)</p>
<p>壁厚に対して扉側に7mm (塗り壁時4mm) のチリ が出ます。</p>	
	<p>下地表よりビス固定</p>
	
	<p>ビス頭の飛び出し ×</p>
	
	<p>○</p>
	
	<p>チリが出る側(扉側)にピン角を向ける</p>
	
	<p>【クロス仕上の場合】 壁厚より7mmチリが出る</p>
	
	<p>【塗り壁仕上の場合】 壁厚より4mmチリが出る</p>
ボイント	<p>※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス留めしてください。 ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。</p>

3 縦枠

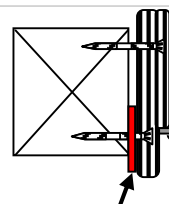
□縦枠下地

縦枠下地の取付					
<p>縦枠下地を壁厚(柱)の中央にあてレーザー等で立ちを見ながら、同梱の調整ビスで取付けてください。</p> <p>※クロス・塗り壁で仕上げますのでビス頭の飛び出しは厳禁です。</p> <p>取付の際に、クリアランススペーサー(調整ビスに同梱)を柱と枠の間に入れながら、調整ビスを締めてください。</p> <p>※柱と縦枠下地のクリアランスは2mmが標準設定です。</p> <p>【注意事項】</p> <p>縦枠下地を含む全ての下地枠を取付け後、縦枠下地の調整と固定をする必要があります。</p>	 <p>調整ビス 開き側</p>	 <p>調整ビス 1mm</p>	 <p>調整ビス頭の飛び出し</p>	 <p>×</p>	 <p>○</p>
	 <p>クリアランス スペーサー 調整ビス</p>	 <p>2mm</p>		 <p>パッキン材</p>	<p>縦枠下地の下部裏側に 2mm厚パッキン材取付済</p>
<p>ポイント</p>	<p>※縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材がついてますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。</p> <p>※クリアランススペーサーが抜けな場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。</p> <p>※躯体がスタッドの場合は、調整ビスが効かないため、縦枠下地とスタッドの間に必ず木下地（15mm以上）を入れてください。</p> <p>※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり、調整が効かなくなりますので、その際は別の所で再度、固定してください。</p>	<p>調整ビスにより枠を固定</p>	<p>縦枠下地の見込寸法は 壁厚+1mmずつのチリ</p>	<p>調整ビス頭の飛び出し</p>	<p>×</p>
	<p>クリアランス スペーサーを挟む</p>	<p>2mmのクリアランスを保ち調整ビスで取付</p>			

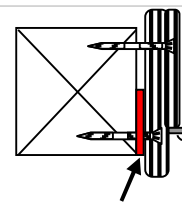
<p>全ての下地枠を取付けた後、下地枠内W寸法を確認してください。調整が必要な時は、手動ドライバーを使用し調整ビスで縦枠下地の出し入れを行ってください。</p>					
	 <p>下地枠内W</p>	<p>下地枠内の開口を確認</p>			

縦枠下地の固定

取付・調整後、縦枠下地と柱の間にクサビ、又はパッキン（現場手配品）を接着剤併用（表裏塗布）にて差込み、縦枠下地が動かないようガッチリ固定してください。



柱面からクサビ等が飛び出している



柱面からクサビ等が飛び出していない

クサビ又はパッキンに接着剤を塗布し縦枠下地と柱をガッチリ固定（クロス・塗り壁のヒビ割れ防止策）

ポイント

- ※ウォールスルーが並列する場合など、取合により調整ビスが貫通してしまう恐れがある場合は、別途ビス（現場手配品）で取付けてください。
- ※クサビ・パッキンの差込は、ビスとビスの間に入れてレーザー等で立ちを見ながら行ってください。
- ※クサビ・パッキンが柱面から飛び出していると、石膏ボードの取付ができないので、柱面から飛び出さないようにしてください。

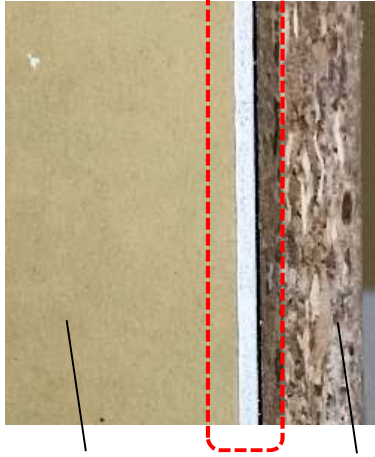
石膏ボード・シンプル幅木の取付

forステルス【標準仕様】
施工手順書2025/1改訂

石膏ボードの取付け時の注意点

枠に突き付ける石膏ボードは面をとり、枠との間に隙間が出ないように石膏ボードを取付けてください。

【注意事項】
クロスや塗り壁の仕上がりに影響がでる恐れがありますので必ず守ってください。



石膏ボード

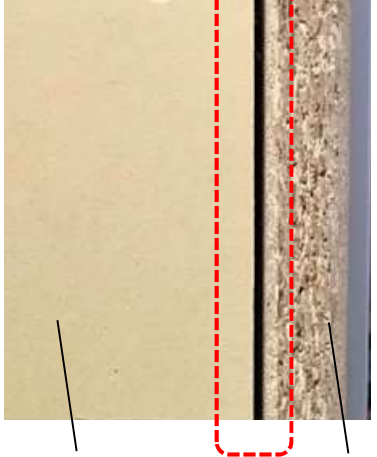
下地枠

石膏ボードと下地枠の隙間無し

○

石膏ボードの面取有り

○



石膏ボード

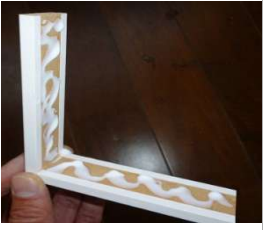
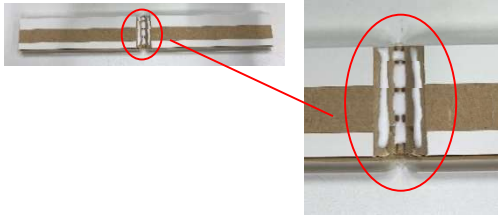
下地枠

石膏ボードと下地枠の隙間有り

×

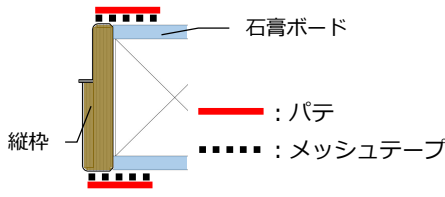

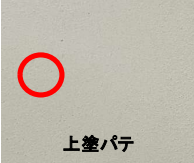


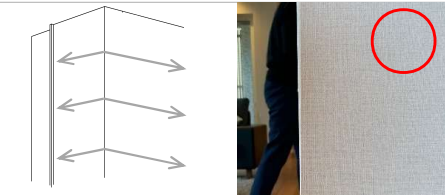
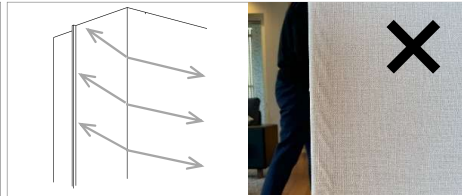
石膏ボードの面取無し

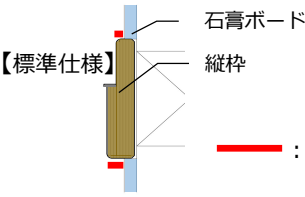
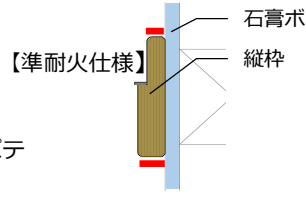
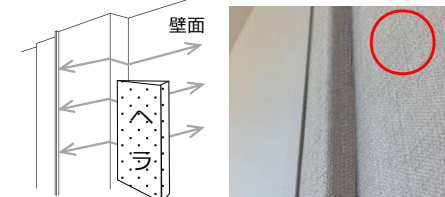
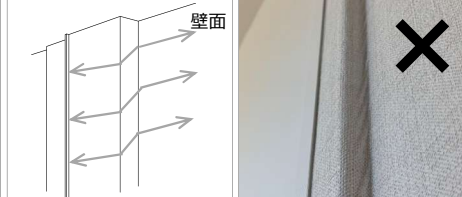
×

シンプル幅木コーナー役物・取付け時の注意点				
<p>枠の取付・調整、及びクサビ、またはパッキンの固定が終わったら、幅木を接着剤で縦枠下地の下部の切欠き部分にはめ込むように取付けてください。</p>				
	接着剤全面塗布 (推奨：酢ビ系)	【クロス貼り仕上の場合】 切欠寸法：7×30	【塗り壁仕上の場合】 切欠寸法：4×30	下地の欠き込み部分にはめ込む様に取付
				
	【注意事項】 幅木コーナー役物のVカット部も接着剤を塗布してください。※塗布しないと割れ易くなります。			
ポイント	<p>※出荷時には、シンプル幅木の切欠き加工がされています。</p> <p>高さ30mm以上の幅木をご使用の場合は、現場で高さ方向の切り欠きを行ってください。</p> <p>※厚さ7mmを超える幅木(現場手配品)には対応しておりません。</p>			



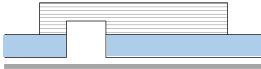
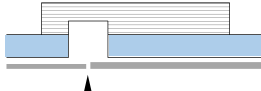

4 パテ、クロス（塗り壁）

□ クロス施工時の注意点

縦枠【袖壁納まりの場合】	
<p>① 縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。</p>	 <p>石膏ボード 縦枠 — : パテ : メッシュテープ</p> <p>ジョイント部をまたいでメッシュテープを貼る</p> <p>ビス穴、メッシュテープ部、及び縦枠の木口面全体にパテを塗る(下塗り、上塗り)</p>
	<p><パテ塗り厚の目安></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div>  <p>下地パテ</p> </div> <div>  <p>上塗りパテ</p> </div> <div>  <p>下地パテ</p> </div> <div>  <p>上塗りパテ</p> </div> </div> <p>下地パテを塗布した時点でメッシュテープの繊維が隠れ、上塗りパテで完全に隠れる状態が適量です。</p> <p>メッシュテープの繊維が浮き出る状態はパテの量が不足しています。</p>
<p>② 下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。</p>	 <p>枠に巻き込む際、クロスは上下左右余裕をもったサイズでまっすぐ貼る</p>  <p>枠に巻き込む際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼るとクロスよれの原因となります</p>
ポイント	<p>※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。</p> <p>※縦枠の木口面全体にパテを塗ってください。</p>

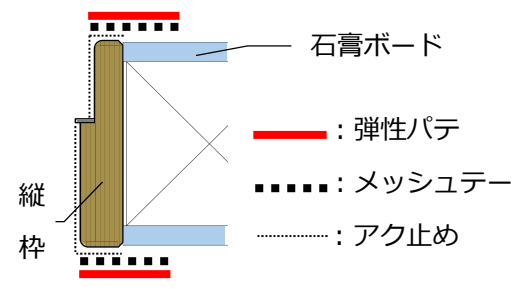


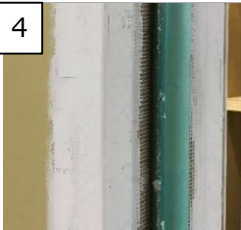

縦枠【入隅壁納まりの場合】	
<p>① 縦枠の入隅部は貼りづらく、クロスを貼る際にクロス面積が大きい壁面のクロスに引っ張られやすくなりますので注意が必要です。</p> <p>縦枠の木口面にパテ等を塗り、クロスを貼る際は縦枠の木口面をヘラ等であてながら壁面のクロスに引っ張られないように、まっすぐ貼ってください。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>【標準仕様】</p>  <p>石膏ボード 縦枠 — : パテ</p> </div> <div> <p>【準耐火仕様】</p>  <p>石膏ボード 縦枠 — : パテ</p> </div> </div> <p>ビス穴、縦枠の木口面全体にパテを塗る (木口面の見附寸法が小さく、パテが塗りにくい箇所はコークボンドを塗る) ※但し、クロス厚が薄い場合はコークボンドで不陸が出ないようにご注意ください</p>
	 <p>壁面 枠の入隅部に貼る際、クロスは上下左右余裕をもったサイズで木口にヘラ等をあてながら壁面のクロスに引っ張られないようにまっすぐ貼る</p>  <p>壁面 枠の入隅部に貼る際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼ると壁面のクロスに引っ張られ、クロスよれの原因となります</p>
ポイント	

□ クロス施工時の注意点


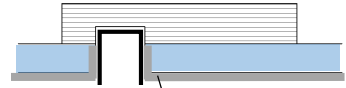
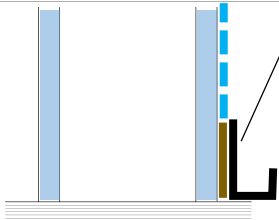
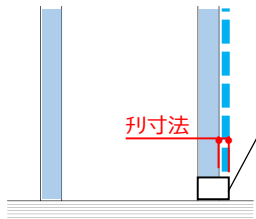
上枠				
<div>① 上枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。</div> <div>※天井高納まりの場合、標準設定の【天井ボード勝ち】納まりではジョイント部が発生しませんので不要です。</div> <div>上レールが取付く場合の天井クロスはレール溝に巻き込み、上レールを取付けてください。</div>	<div></div> <div>天井高納まり</div>	<div></div> <div>■ : パテ ■ : メッシュテープ</div>		
	<div>クロスよれ等を防ぐため、 【天井ボード勝ち】納まりを標準設定とします。</div>	<div>上枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。</div>		
	<div></div> <div>①レール溝をまたいで クロスを貼る</div>	<div></div> <div>②溝の中央にカッターで 切れ目を入れる</div>	<div></div> <div>③クロスを溝に巻き込む</div>	
	ポイント			

□ 塗り壁施工時の注意点

塗り壁の施工例：縦枠（漆喰、弾性パテを使用の施工例）

<p>① 木工事完了後、枠にアク止め材を塗布・乾燥後、縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼ってください。</p> <p>※コーナー見切材を使う場合は、メッシュテープを貼る前に取付ける。</p>	 <p>石膏ボード</p> <p>縦枠</p> <p>— : 弾性パテ</p> <p>..... : メッシュテープ</p> <p>..... : アク止め</p>	<div> <div>1</div> <div>アク止め材塗布・乾燥 (2度塗りを推奨)</div> </div> <div> <div>2</div>  </div> <p>アク止め材を塗布・乾燥後、縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼る (写真はコーナー見切材を併用の場合)</p>
<p>② アルミ調樹脂見切材、金物等に養生を行い、弾性パテを塗布・乾燥 → シーラー材を塗布・乾燥 → 漆喰を塗布・乾燥させてください。</p>	<div> <div>3</div>  </div> <div> <div>4</div>  </div> <p>金物等を養生し、弾性パテを塗布する(一度塗り)</p>	<div> <div>5</div> <p>シーラー材塗布・乾燥 (一度塗り)</p> </div> <div> <div>6</div>  </div> <p>シーラー材を塗布・乾燥後、漆喰を塗る</p>
<p>ポイント</p> <p>※壁仕上げ面の塗り厚は2～3mmの設定です。</p> <p>但し、引き戸の下部見切り縁の出寸法が2.5mmのため、はみ出さないよう注意して施工してください。【下図参照】</p> <p>※コーナー見切材を使う場合は、コーナー見切材の端部にもメッシュテープを貼ってください。</p> <p>※金物が取付く箇所はコーナー見切材を切り欠いて取付けてください。(ヒンジ、ラッチ受け、錠受け金物を先につける)</p>		

塗り壁の施工例：その他（漆喰、弾性パテを使用の施工例）

<p>① 下がり壁納まり、天井の仕上げ材、壁付けの金物、引き戸の下部見切材については右表をご確認ください。</p>	<p>下がり壁納まり</p>  <p>— : 弾性パテ ... : メッシュテープ : アク止め</p>	<p>天井高納まり</p>  <p>クロス仕上げ ※塗り仕上げ不可</p>
	<p>下がり壁納まりは、上図縦枠と同様の手順で施工してください。上レールは塗り壁施工前に取付けてください</p>	<p>天井高納まりの場合は、天井の仕上げはクロス貼りとしてください</p>
	 <p>壁付ガイド金物等 — : スペース — : 塗り厚2～3mm</p>	 <p>下部見切縁 寸法 — : 塗り厚2～3mm</p>
	<p>壁付の金物を取付ける場合、塗り壁の塗り厚分のスペース(合板等)を挟んで取付けてください</p>	<p>引き戸の下部見切り縁のチリ寸法が2.5mmのため、はみ出さないよう注意して施工してください</p>
<p>ポイント</p>	<p>※壁仕上げ面の塗り厚は2～3mmの設定です。 但し、引き戸の下部見切り縁のチリ寸法が2.5mmのため、はみ出さないよう注意して施工してください。 ※下がり壁の上枠下端面(上レールが取付く面)の塗り厚は1.5mmの設定です。</p>	

5 上レール

上レールの取付

戸先側・戸尻側の向きに注意し、右表のとおり各開閉様式に応じた金物を上レール内部に入れ、同梱ねじで上レールを固定してください。

【注意事項】

※上レールはプレカット、穴加工済み、「戸尻側」のシール貼り済みで納品されます。

※ソフトクローザーの誤作動の原因となりますので、上レールの取付ビスの締め過ぎやビス頭の出張りが無いように注意。

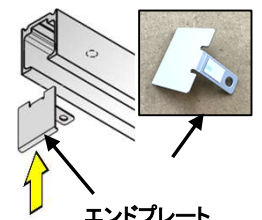
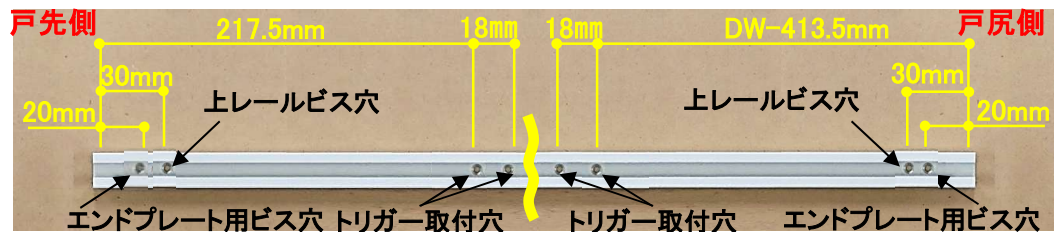
※エンドプレートがある場合は上レール端部に両面テープで仮止めし、同梱ねじで固定。

※トリガー取付穴に上レール固定ねじを取付けないでください。

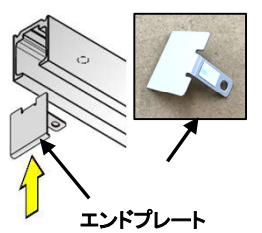
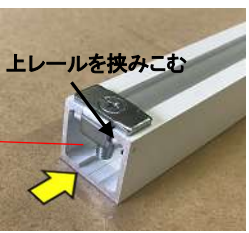
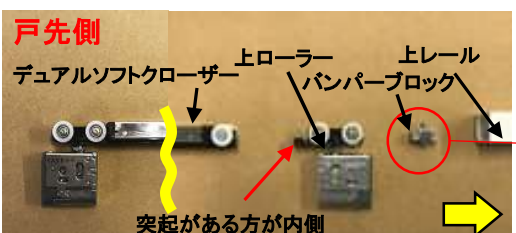
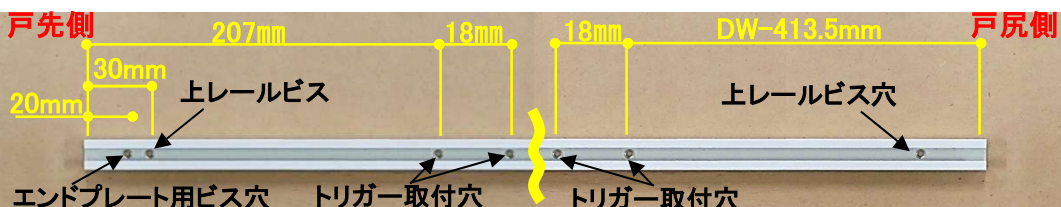
※上レール内のゴミやアルミの切粉などは取り除いてください。

※金物が破損する原因となりますので、過度な勢いで扉の開閉を行わないでください。

【アウトセット片引き戸エンド枠無し】

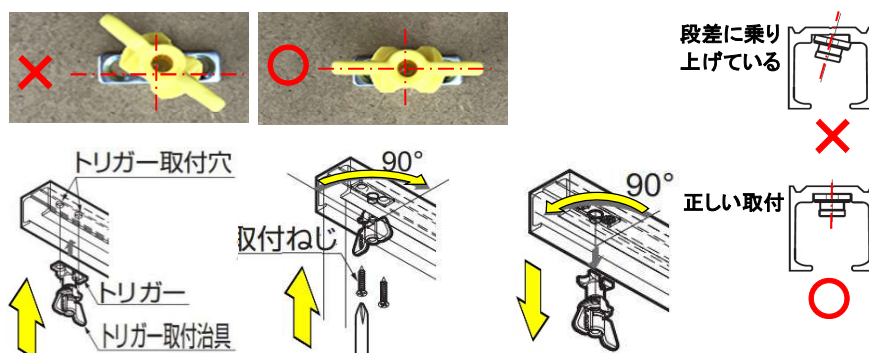


【アウトセット片引き戸エンド枠付き】



トリガーの取付

トリガーを取付治具にセットし、トリガー取付穴に合せてください。
治具を90°回し、トリガーを付属ねじで取付けてください。取付治具は元のの向きに戻すと外れます。



バンパーブロックの固定

グレー色のゴム部を上レール端部ぎりぎりに寄せて固定します。
上レールをバンパーブロックで挟み込んでください。締付は手動ドライバーで行ってください。



床付けガイドの取付

右表のとおり各納まりに応じた金物を取付けます。

【注意事項】

※右表はクロス仕上げの場合の寸法を示します。塗り壁時を含め、取付寸法は邸別(開口毎)の納まり図でご確認ください。

※塗り壁時の塗り厚は2～3mmを想定しています。



床付ガイドの場合

壁付ガイドの場合

6 扉

扉の吊り込み

建具下の溝をガイドに差し込みます。

ポケット戸の場合は先ず戸尻側のみ、扉上部のケーシングと上レール内の上ローラーを連結してください。次に扉を回転させながら、扉下部の溝を床付ガイドに差し込みます。

建具を起こしていきながら、建具上部のケーシングと上レール内にある上ローラーを連結し、吊り込み完了です。

吊り込み後に上ローラーで調整をする際は、上下調整は下側のネジ、左右調整は上側のネジにて、手動ドライバーで行ってください。

全ての調整を終えたら、化粧キャップを取付けてください。

外す場合は、化粧キャップの溝にマイナスドライバー等を差し込み外してください。

両側のローラー吊軸の跳ね上がり防止ナットを、本体に接触するまでスパナで締めてください。

【ガイドの場合】



床付ガイドの場合



壁付ガイドの場合

【上ローラーの連結】

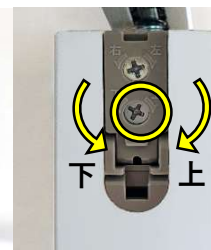


【上ローラーの外し方】

脱着レバーを倒し、引張る



【上ローラーの調整】



【調整可能範囲】

上下方向±4.0mm

！調整し過ぎに注意！

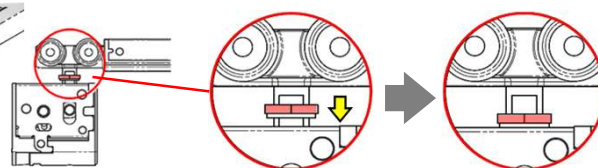
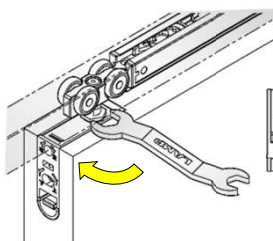
【化粧キャップの取付】



NG
脱着レバーが元に戻らない

調整可能範囲を超えた上方向への調整は脱着レバーを倒した場合、脱着レバーが元に戻らず、吊車が扉に完全に固定されずに脱落の恐れがあります。その際は下方向に調整を戻してください。

【跳ね上がり防止ナットの締付】



鎌錠の取付 (表示錠、間仕切錠、サムターン錠)

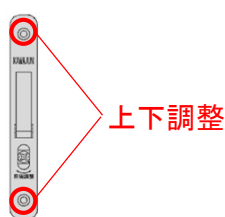
【鎌錠受けの取付・調整】

クロスが乾いてから受け金物部分(鎌錠付の場合、鎌錠受け部分)にカッターで切り込みを入れ、受け金物を加工部に取り付けます。



塗り壁の場合は、塗り仕上げ前に鎌錠受けを取付けてください。

鎌錠受けで調整する場合は、上下調整は上下の固定ビスを緩めて、鎌錠受けを手で上下に動かしてください。隙間の調整は内側にあるビスをまわして調整を行ってください。



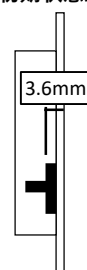
上下調整



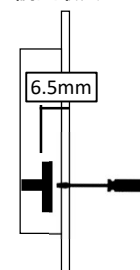
前後調整

調整範囲：±4mm 調整範囲：+2.9mm

初期状態最



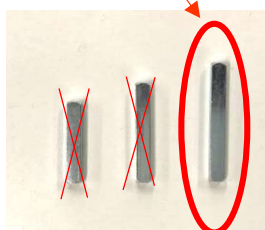
調整最大



【片引き戸錠の調整】

芯棒が種類入っているので、一番長い(32mm)もので錠を取付けてください。
(短い芯棒を使用するとかかりが悪くなります)

1番長い芯棒を使

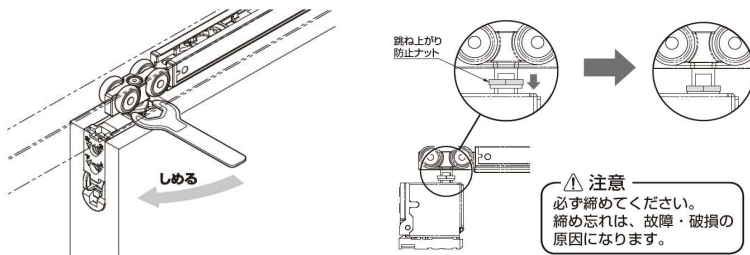


7 調整、トラブルシューティング

トラブルシューティング

⚠ 動作不良や異音発生を防ぐ内容ですので必ず確認してください ⚠

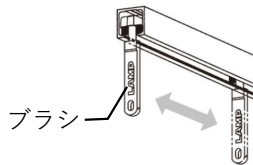
①戸先側・戸尻側の吊車の跳ね上がり防止ナットを締めてください。



↑ ナットの締め方のコツ

②切り粉などがレール内部に残らないようにブラシや布等で掃除してください。動作不良や異音が発生します。

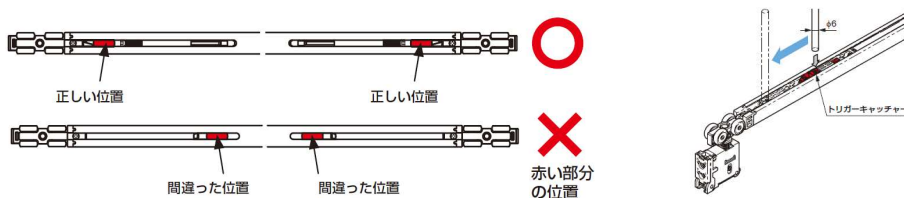
シリコンスプレーなどは使用しないでください。埃が溜まりやすくなり動作不良等の原因になります。



↑ 異音発生時の対処方法

③ソフトクローズが効かない場合、ダンパーの位置が違う可能性があります。

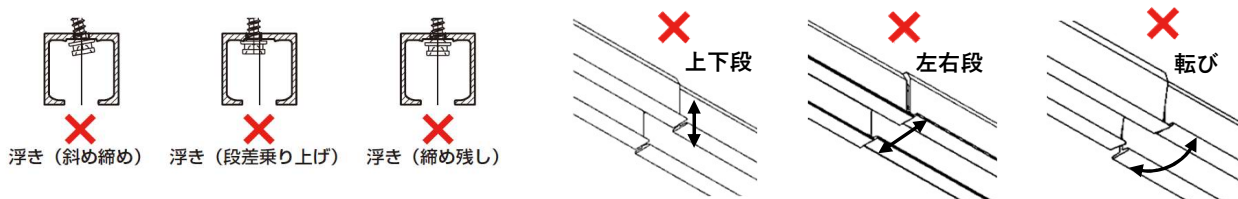
ダンパーの位置を確認して、正しい位置に戻してください。



↑ ダンパー位置修正方法

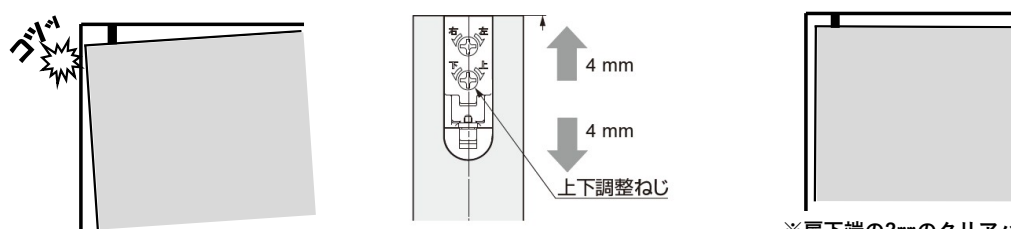
④レールのつなぎ目に段差が無い、レールやトリガーに転びが無いを確認してください。

扉が閉まりきらなかったり、動作不良を起こします。



⑤扉を閉めた時に扉上部が先に当たっていると“コツツ”と音がします。

吊車の上下調整をして扉が縦枠と平行になるようにしてください。

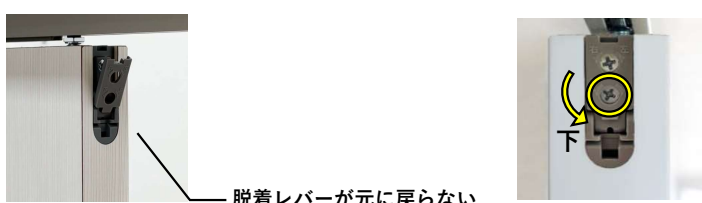


↑ 調整方法動画

※扉下端の2mmのクリアバンポン分空きます

⑥吊車の脱着レバーを倒した後、元に戻らず扉と吊車が固定されない。

上方向への調整し過ぎのため、調整を下方向へ戻してください。



↑ 脱着レバーが
固定されない時